

オーストラリア(AUS)と

ニュージーランド(NZ)の畜産状況(一)

スライドによる紹介

北海道開拓農業協同組合連合会

前川裕美

昭和四十三年十一月(十二月、およそ一月)肉専用牛(ヘレフォード種(以下(ヘレ種)の購買員として渡濠の機会を与えられ、更に五日間ニュージーランドの畜産事情に接することができましたので、スライドによって両国の事情を紹介します。

AUSは面積七七〇万平方キロメートルで日本のおよそ二倍、人口およそ一、三〇〇万人、その三七%にあたる四八〇万人がシドニー、メルボルン両都市に集中し、ブリスベーン、アドレイド、ペースを含めて五大市と言われます。

聯邦政府は新興都市人口一〇万人のキャンベラにあって、英国のガバナ、各国大使館もあります。

航空機はクワンタスで千歳十五時、羽田十七時半、香港、マニラ経由翌朝八時半に(時差一時間)、日本出発およそ十六時間目に、同国の玄関シドニー市郊外の空港に着きます。同市の上空では平屋建の煉瓦造りの茶色の瓦、同一規格の造り、庭園が美しく見下せます。そして広大な同市に驚きます。日本の十一月の冬空と誠に反対の陽光、輝き、熱さに驚くと同時に、その時間

の短縮に改めて世界の狭さを感じます。しかし航路の約四分の一は同国領土の上空にあります。

気象状態は亜熱帯から熱帯に位し、五大都市は亜熱帯にあって、羊、肉牛とも、南緯二五度が限度のようです。

同国に到着して、畜産に関する米國資本の動きに、アメリカ資本によるAUSの北部に建売り牧場の計画があるそうです。

日本とは農業開発資金(東南ア開発銀行)による水資源の確保、電力開発のダム建設が大きな話題となっております。

同国は第一次産業の農・畜産の生産構造改革と併せて、第二次産業の特に重化学工業、工鉱業、サービス、観光業、商業の発展と体質の改造に重点をおいています。

このような政策から外国資本と技術の提携を強く希望しております。

電波等の広報産業、情報産業、ラジオ、テレビも活発ではありません。朝八時から十二時と更にチャンネルも各州一(二局

で、日本の凄まじいコマーシャル放送を見慣れた眼には物足りない感じがするくらいに静かです。国産よりも米系商品、英資本

によるのが多いようです。例えば町は日本の車がおよそ三分の一走っていますが、ノックダウン方式のホールデンプリミヤ(日本円一二〇万円)とかコーラ、化粧品、トランジスタが多い。新聞で特に目立つものにポートを売りたいし、三、〇〇〇が、買ったし二、九五〇とあって、同国のレジヤは、キッチン、ベッド付のポートを買って週末に水上で過ごすのが流行しています。よく市内で乗用車がトレーラーに積載したポートを曳いているのを見かけます。

娯楽番組に東洋人の、日本と香港の混合した風景が見られますが、番組フィルムは米國産が多いとのことです。

滞濠中に同市郊外キャンタベリー競馬場で遊びましたが、入場者は古風な伝統を守る風俗派、山高帽に燕尾服、ロングスカート、帽子に花と、ミニスカート、半袖シャツの軽装若者達と大別できます。若者達は耳にトランジスタを当てる全国のレース状況を聞き、更に眼前のレースの勝負を追う、そのトランジスタは日本産です。

小型な手掌内に納まるもので、かなり出回っています。テレビは一九(二一吋)の硝子の白隆したものが多く、トランジスタは見かけません。

AUSの年間輸出額は、七〇億がといわれ、八〇%は農畜産物で占め、更に木材のかり、ヤラーはその質が細工物に好適から価格は高いようです。羊毛は年産七千万

ト、その外バター、チーズ、羊肉、牛肉、麦が主産ですが、その主要輸出の英国とは最恵国待遇関係が、英国のEEC圏への接近策によって、その市場性は期待値が薄れ、AUSと英国の貿易額は減少せざる

を得ないようである。ためにAUSの輸出先は米國及日本の好市場に向けられつつあるのが現状で、事実重点的に振興策をとっておるようです。

ヨーロッパ、米國、日本と主要国がその農業政策が構造改善というか、生産構造に重点をおいていますが、AUSにおいても次の如き悩みを有し、構造政策の実施にあるようであります。日本大使館の中瀬一等書記官は、次のように説明しました。

AUSで小農とは五〇(百二〇)から酪農規模三〇頭(四〇頭の乳牛を有し、年取二、〇〇〇が(八〇万円)以下

脂肪産出 一万磅、以下を呼んでいますが、この級の農家が農業就業者の六四%もあることで、およそ一〇万人がこの級に入ります。

この国は重化学、工業、加工業等の第二次三次サービス業等への体質改善を目指し、労働力の不足は、多くの移民を受入れてはいるものの優れた技術者、熟練工が不足は絶対です。

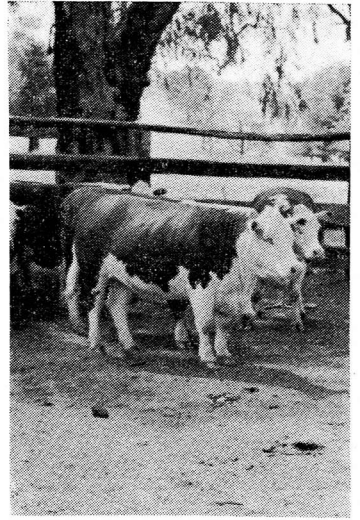
先のホールデン・プリミヤの高級車でも新車からドアの硝子はガタがあり、日本人のユーザーは不満を表明しますが、AUS人は気にかけないようです。

さて、農業界の悩みを先に記しましたが、マジナル・デヴィイ・ファーム、MAR

GINAL DAIRY FARMと称し、同国の四〇歳代の農務長官アンソニー氏の大型酪農家牧場創設政策というもので、その骨子は、小農の離農勧告、用地、農機具の政府

買上げて規模拡大者に分譲し、離農者は、リハビリテーションで職業訓練をうけ、適

正労働に再就職するものです。



育 成 牛

牛牧場で経営者はマードック(四五歳)さんで第二次大戦で死亡した長兄の後を引受けたとの事です。

経営内容、面積、五、六〇〇坪
採草地 四五〇・放牧地 三、一五〇・麦、えん麦 二、〇〇〇。
家畜、ヘレフォード種 七〇〇頭、羊 五、〇〇〇頭、

牛の内訳、登録牛二〇〇、コマージュナル、五〇〇、種牡牛六〇、幼年数不明。
収入四万が(一、六〇〇万円)

登録、成育、コマージュナルの販売、羊毛、羊個体(ラム、マトン) 支出、夫婦二人、娘三人、息子二人、牧夫五人(労賃一五、〇〇〇)で、その臨時羊

毛剪入労賃、生活費、成牛、成羊の購入、登録費、燃料、動力費、農業資材費等。
当牧場は一九六七年の大旱魃に羊販売を余儀なくされたが、その被害額は二二、〇〇〇で年取の場に相当するそうです。

羊の飼育目標は一万頭とのことです。このような自然条件の激変に牧場経営では、羊がその自衛の緩衝となっている。牛は増殖が遅いということ。幼牛の数が不明なのはビジネスの対象とならないとの思想のようです。

この旱魃にシドニー北東位のグレンバウナム(GLENBAWN DAM)は次のとおりで、私共には想像がつかない自然現象と言える。深さ一、八〇〇に、広さ二九三〇〇坪、これの造成に、ハンターバレー地方の渓谷に大築堤で仕切り、この上が高速度路となり、観光地となっています。この造成に六ヶ年を費したといわれ、下流域は、麦、葡萄産地となり家畜も豊かに飼われている。この人造湖が全く干上がったと言われる。

NSWの東南部に位し、雨量五〇〇(六〇)で冬期から春期への季節でしたが、放牧地は黄褐色であります。気温二七(二八)度で、ひとたび降雨(シャワー)があると緑に変わると言われますが、広大なゆるやかな起伏の地形が色です。訪れた日は、風速二五(前夜の強風が吹き塵埃、土砂を黒く吹き上げ、車のフロントガラスに雨滴が認められたときは、喚声をあげてます。

放牧地は枯れた草株間に前年の落下した種子から発芽したストロベリークローバー、(Strawberry Clover)の幼葉が僅に緑色をしております。

放牧牛はこの幼葉と種実を採食するが、

その発育と栄養、肉付は悪条件に拘らず整一な状況です。

写真の二は育成牛で本道で見られる輸入牛とは体型が異なるので、AUSの改良方向はどのようなものか、これに対し、英国の種牡牛導入が主体をなし、体高の伸びを改良の第一としている。本種は英国の原産で農耕使役牛の活用されたが同国の機械化で純肉専用牛として改良されてきた。その後米国へも輸出されて米国タイプの体型に改良された。英国とAUSが原々種の体型から体格雄大、産肉性の増大に努力している。四肢は放牧に耐えるよう強く、乾燥している。

このような自然条件下にあるので、特に肥育はしていない。このため脂肪の入りが少なく、米国のフィードロットで肥育された肉と混合するのに輸出され、米国ではハンバークに良く使われている。

AUSの育成牛と種牡牛の主要輸出国は、アルゼンチン、チリ、ブラジル、パキスタン、アメリカ、カナダ等で逐次南アメリカが増加しているそうです。

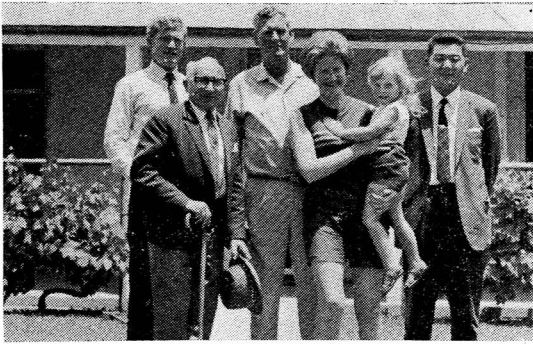
ここで日本との交流は戦後のジャージー種 羊の輸入、サラブレッド、ライラック牧場のア・アンガス、静岡・袋井化のヘレフォード種寄贈、と今回の六〇頭 岡山・池田牧場へのジャージー寄贈、と多くはありません。

AUSの羊・ジャージー以外乳用牛に見るべきものがないだけに肉専用牛の輸出には相当の努力が払われています。

(以下次号)

しかしニューサウスウェルズ(N.S.W)州出身の同化案に対し、ヴィクトリア(VIC)州は反対ということ。VIC州は雨量も多く、小農面積でもNSWよりは三倍の収入を挙げられるからであります。両州の土地の評価は、羊の飼養可能数が基準であり、N.S.W 一坪(四〇坪)二頭 VIC 〇.五(五)六頭で後者の自然条件の有利さを物語っております。AUSの物価は年々僅かずつながら上昇し、酪農、畜産の労働賃金の上昇も高く、大型になるほど人件費の割合も大きく、年収が四万が(一、六〇〇万円)のうち牧夫労賃及び羊毛剪入の臨時費も含めて九千(一万二千)が(三六〇万円)(四八〇万円)の二(三)〇%に相当します。この人件費はAUSのユニオン(労働組合)との協定で厳守されています。日本から農業実習生の受入れでも猛反対したのは、この牧場ユニオンであり、日本大使館は何回かの反対陳情を受けたとのことです。

しかし短期であり、賃金低いことから納得した後は友好的であるようです。写真の一はNSWの典型的と言える肉用



ウァンタ・パァチェリーイースト牧場ワガワガ